

今まさに求められるエネルギー転換をテーマに経済交流の可能性まで ～ロンドン事務所における初ドイツセミナーより～

ロンドン事務所

ドイツ・ニーダーザクセン州ハノーファー市にあるハノーファー大学無機化学講堂において、平成 24 年 9 月 5 日（水）に「徳島県とニーダーザクセン州におけるエネルギー転換への取組みについて（Energiewende: Aspekte der Umsetzung in Tokushima und Niedersachsen）」をテーマに日独交流セミナーを開催しました。徳島県とニーダーザクセン州は、第一次世界大戦期の板東俘虜収容所の歴史的背景から生まれた徳島とドイツをつなぐ特別な友情と交流をはじめ、すでに両県州に存在した友好関係、特に鳴門市とリュネブルグ市の姉妹都市盟約等に鑑み、2007 年 9 月に友好交流の提携をしました。今回、この両県州の友好交流提携 5 周年に合わせ、当事務所主催で初のドイツセミナーを開催する運びとなりました。代替エネルギーへの転換に向けた取組みは地球温暖化等への対応という意味ではグローバルな取り組みである一方、地域の特性に応じた代替エネルギーを選択し、住民やコミュニティの協力も得て推進していくという点で、地方自治体の果たすべき役割も大きなものとなっています。日独双方の関係者が集い、両国の地方自治体が取り組むべき課題や経済交流の可能性について取り上げるとともに、講演及び質疑応答を通じて相互理解を深めることを目的として、セミナー開催に取り組んだ次第です。

好評を得たセミナー ～時宜を得たテーマの選定～

セミナー開催にあたり、先ず内容について両県州と協議しました。日本におけるエネルギー施策は、東日本大震災を機に急遽転換を迫られています。また、ドイツでは日本の震災を機に再生エネルギーへの機運はさらに高まったということでした。

そこで、今回のテーマを「エネルギー転換への取組み」とし、日独双方から、以下の内容で発表を行いました。

【日本側】

- 徳島県より県の環境・新エネルギー施策について
- 県内発生企業の日亜化学ヨーロッパより環境配慮型産業としての LED の技術開発について
- JETRO ベルリンより日本のエネルギー事情

【ドイツ側】

- ニーダーザクセン州より州のエネルギー転換への貢献と成功事例について
- 州のイノベーションセンターより再生エネルギー及び電気交通の分野での投資環境について



徳島県齋藤副知事が県の環境・新エネルギー施策について講演

〇州代表企業であるエネルコン社より風力発電設備の投資機会について



セミナーでは現地自治体関係機関の方々を含め多くの来場者が熱心に聴講

結果、足場のないドイツでの初のセミナーという心配をよそに、71 名が出席という盛況となりました。

両国のツボを押さえた企画・広報

～現地機関のサポートのもとに～

セミナー開催の報告に当たって、最初にお伝えしておきたいのは、このセミナーが成功裏に終わったということです。時宜を得たテーマの選定、集客を意識し経済交流も視野に入れた講演内容・資料作成を行い、多くの参加者から「両県州の今を知り得た内容だった」と評価いただくことができました。

準備段階において、現地における反応を意識し、州とのコンテンツ協議に始まり、現地日系機関であるデュッセルドルフ日本商工会議所や JETRO ベルリン事務所には、そのネットワークを駆使して広報にご協力をいただきました。準備段階では手探りの状態でしたが、現地機関の持つ知見に助けられ、御協力いただくことでセミナー成功への道筋を立てることができました。エネルギー施策に確固たる政策を持つドイツにおいて、経済的交流も視野に入れたセミナーを開催できたことは、当事務所にとっても自治体の新たな活路の場を見いだすきっかけ作りになったのではないかと考えています。



会場に展示された LED 製品を観て、色々質問するセミナー参加者

クレア事務所を上手に活用

～併行して鮮度調査も実施しました！～

今回、セミナー開催後のレセプションの場を活用して徳島県産の梨とすだちジュースを提供することになりました。そこで徳島県は、クレアへの海外調査依頼の制度を活用し、ドイツへの輸送と同時にイギリスにも生鮮食品の輸送を行い、鮮度保持状況調査を実施しました。EU 規制の下、英国における日本の生鮮食品の輸入は事例が少なかったのですが、実際にさつまいもやレンコン、梨、ぶどうやハウレンソウ、レタス等を輸送しての実地調査によって、現在の状況下における『生きたデータ』を得ることができました。徳島から英国の目的地に実際のモノが辿り着くまで、そこに関わる各国の公的機関の手順、かかった日数全てが実地調査の結果として大きな成果となりました。

担当として感じたこと ～初めてだからこそ「得られるモノ」の大きさ～

この度徳島県とニーダーザクセン州の友好交流提携5周年に合わせてドイツでセミナーを開催したわけですが、これまでに足場のない地でイベントを主催するには、現地機関の多大なる御協力が不可欠でした。各機関には、小さなことから相談に乗っていただき、新たな関係の構築にも御協力いただきました。振り返ると全てが新しい財産構築の場であったと思います。日本の地方自治体が活動するにあたって、こんなにも支えてくださる方々が海外にいらっしゃるのだと、担当者として日々感じ入った事業でした。海外において知りたいこと、知ってもらいたいことをタイムリーに捉えて実践すること、明確な目的意識を持ってそれに当たることの重要性を改めて実感しています。またそのような地方自治体の活動に、クリアが間に入って手助けができる機関であることを、我が身を持って知ることができたセミナーでした。

(栗田所長補佐 徳島県派遣)

